

# 香取遺産

Vol. 20

## 「中世の木製塔婆」

### 永禄4年銘の卒塔婆

卒塔婆は、古代サンスクリット語の梵字や経文などを記し、死者の追福のために墓などに立てるもので、現在でも墓石の後ろなどに塔形の細長い板を立ててあるのをよく見ます。

ここでとりあげるのは、大崎城跡（市指定史跡）の発掘調査で出土した、永禄4年（1561）の紀年銘をもつ卒塔婆です。

この卒塔婆は、濠跡から動物の骨などと共に廃棄された状態で発見されました。直径約3・5cm、長さ約150cmの桜木を樹皮を

残したまま削いで、空風火水地を表す「発心門」梵字、

「光明真言」（呪文 梵字を記し、その下に「法華経如来寿命品」というお経の句、さ

らにその下に回向文を漢字で二行に書き分けています。

回向文には「□□信女」云々とあることから、この卒塔婆は女性を供養するた

めに作られたことがわかります。

当地では、鎌倉時代から室町時代にかけて大小さまざまな石製卒塔婆（下総式板碑）が数多く作られますが、木製卒塔婆の発見例は初めてであり、当時の庶民の信仰を知る上で大変貴重な資料です。



（東発心門）

（光明真言）

キヤカラバア

オシアホキヤベイ

ロシヤナウマカ

ボダラマニ

ハンドマチンバラ

ハラバリタヤウン

...

▲卒塔婆の模式図

...

...

...

...

...